

## 第9期 まちづくり大学 第5回講義

平成25年7月5日(金)

下水処理場見学

～狭山水みらいセンター～

大阪府南部流域下水道事務所 狭山管理センター 池田 センター長  
松浦 課長補佐  
森口 総括主査  
柴田 副主査  
大阪狭山市都市整備部 下水道グループ 三井 課長  
中村 主任  
大阪狭山市市民活動支援センター 大野 総務担当  
村山 VIC 担当

出席者 15 名 ( 男8名 女7名 ) 欠席15 名



狭山水みらいセンター本館



せせらぎの丘

### 概要

第5回講義として大阪府南部流域下水道処理施設「狭山水みらいセンター」の見学を行った。私たちの家庭から排水される汚れた水が、どのように流れ、処理されて、きれいな水になるのかを勉強しました。

三井課長(パワーポイントを用いて)

1. 大阪狭山市は狭山町の頃から下水道事業に取り組んできました、市制をひいた昭和 62 年頃の普及率は61%でようやく半分を超えたぐらいでした。

その後人口増加とともに住民を伝染病から守るために水質改善を目的として一気に下水道の整備を行ってきました。

平成 14 年には99・9%までの普及率となり府下で第6位に位置していました、現在は污水整備も完了し浸水対策として老朽化した雨水用の下水道の改築を進めているところです。

## 2. 私たちの生活と下水道について

皆さまが毎日使っている水道水は下水道管に流れ込みます。4 人家族で 1 日 1000 リットルの水の使用量になります、1 人当たり250リットルとなり大きなペットボトルで 167 本分の水を使用していることになります。

汚水は汚水管、雨水は雨水管をとおって、汚水の汚れは污水处理場へ、雨水は河川へと流れていきます。

汚水対策として、雨水用下水道管の維持管理、点検が非常に重要なこととして取組んでおります、下水道は私たちの生活でかけがえのない施設であり、下水道管の適正な維持管理のためにも、熱湯、廃油、髪の毛など流さないようにご協力をお願いいたします。

## 3. 下水道普及率

平成 24 年 99.9% (水洗化率 95.1%)

平成 25 年 99.9% 大阪府下では第 5 位(水洗化率 96.3%)

## 4. 下水道事業の財政(平成 23 年度)

歳入 15 億円

下水道使用料	約 7.3 億円 (48%)
地方債	約 2.9 億円 (19%)
一般会計からの繰入	約 3.7 億円 (25%)
負担金・その他	約 1.1 億円 (8%)

歳出 15 億円

公債費	約 9.5 億円 (63%)
下水道維持管理費	約 1.7 億円 (12%)
流域下水道負担金	約 2.15 億円 (14%)
公共下水道整備費	約 1 億円 (7%)
その他 (人件費)	約 0.65 億円 (4%)



三井課長



講義風景

## 池田センター長

### 1. 狭山水みらいセンターのあゆみ

昭和 42 年 富田林金剛終末処理場として供用開始

昭和 55 年 流域下水道狭山処理場(処理能力 30,000 m<sup>3</sup>/日)  
供用開始

平成 14 年 II 系水処理施設完成(処理能力 40,750 m<sup>3</sup>/日)

平成 18 年 狭山水みらいセンターへ名称変更

平成 20 年 II 系処理能力増強 61 千 m<sup>3</sup>/日 設備・運転・運営管理を大阪府に一元化  
平成 25 年 7 月 I 系休止 (II 系にて I 系分処理開始)

### 2. 管理運営体制

富田林市、大阪狭山市、河内長野市を処理区域として次の職員で管理運営しております。

大阪府職員 センター長他 9 名(勤務時間 9:00~17:45)

運転管理 6 名 設備保全 3 名

運転管理業者委託 37 名(24 時間 365 日休まず稼働のため)

### 3. 名称の変更

下水の処理場ということで汚い、臭いというイメージを少しでも変えて頂こうという思いで高度処理水や汚泥が循環型社会を創出する未来へ繋がる大きな可能性を持っていると、平成 18 年度 4 月より「狭山処理場」から「狭山水みらいセンター」に変更されました。

建設事業費(概算)は用地買収費等含めて約 2000 億円と伺っております。

### 4. 下水の正しい使い方

残さない: 食事は食べる分だけ作り残らないようにする。

ふき取る: 食器やフライパンは汚れをふき取ってから洗う。

流さない: 食べ残しや残りくずを直接流さない。

大和川は、長い間全国 No 1 の汚染河川の汚名を着せられていたが、H20 年度は、No 2 平成 21 年度は No 3 となった、流域では下水道整備で高度処理をしており河川の浄化をはじめ、さまざまな河川美化活動が行われてきており、水質は徐々に改善されつつあり、このような順位変動となりました。

流域住民一人ひとりが「大和川をきれいにする小さな工夫」に協力をして、「残さない」「ふき取る」「流さない」など出来ることから毎日の習慣にすれば水質保全につながります。



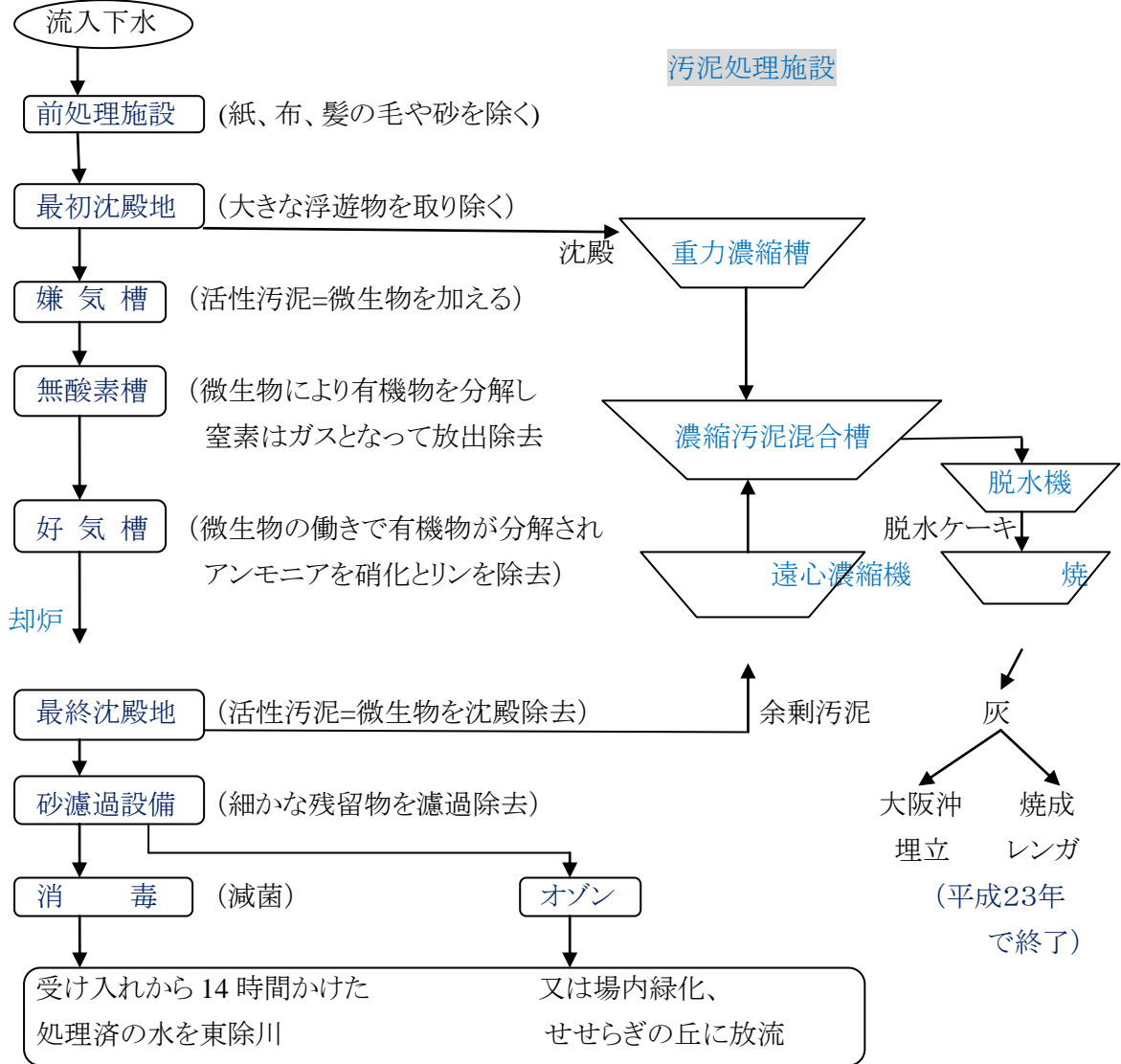
池田センター長



施設見学風景

## 5. 下水道の仕組み

水処理施設 (微生物により有機物を分解)



### せせらぎの丘

平成16年から供用開始、広さは約1万㎡。施設内のせせらぎは、センターで処理された高度処理水が利用され、さらに、処理水は、農業用水、道路散水にも使用されている。

### かがやき広場

平成21年から供用、広さは約13,000㎡、その内約6,600㎡の活動ゾーンは芝生が敷かれ、子ども達が安心して遊んでいる。散策路が設けられ、せせらぎの丘にもつながっているので一体で楽しめる。

以上